



ご挨拶

第 27 回日本産婦人科・新生児血液学会
学術集会会長 大戸 斉

新緑の季節を迎え、日本産婦人科・新生児血液学会の会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、第 27 回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会を 2017 年（平成 29 年）6 月 2 日（金）、3 日（土）の 2 日間の日程で福島市の「コラッセふくしま」にて開催いたします。

本学会は研究会から数えると 40 年の歴史を有し、この間一貫して、産科大出血・凝固障害・凝固異常、妊婦の血栓症、胎児モニター、新生児仮死、新生児脳出血・貧血、母児間血液型不適合妊娠、新生児感染症など、幾多の問題に取り組み、母と子を守り続けてきました。この学会は産科学と新生児学を専らとする医師たちに加えて、麻酔科や輸血医学などの専門家が知恵を出し合い、母と子に関する総合的な医学分野を樹立してきた横断的でユニークな存在として確立しています。

第 27 回の学術集会は、テーマを「産科学、新生児学と輸血医学の邂逅」として、さらにその意義を深めた学術集会となるように様々な話題を取り上げてみました。

シンポジウムでは、「危機的大量出血：フィブリノゲンをどう使う」と題し、フィブリノゲン製剤の保険適応を目指して、医学界のみならず国民的、社会的な観点から取り上げます。また、ワークショップでは、「産科・小児科双方から血友病産産期を考える」、「胎児輸血の適応と進歩」などを企画しております。さらに、教育講演には「Zika virus と妊婦、胎児」、「先天性溶血性貧血」を取り上げました。

本年の学術集会には 68 題もの一般演題が登録されました。主催者としましては大変うれしい限りです。多くの参加者の皆様により活発な議論が交わされることを期待いたします。

会場は、福島駅西口から歩いて 3 分の「コラッセふくしま」です。駅から大変近く宿泊施設も周辺に多くあります。

この学術集会を機会に多くの皆様に福島の初夏を楽しんでいただければ幸甚です。福島県立医科大学の輸血・移植免疫部はNICUと産婦人科の協力を得て、学会が盛会に滞りなくとり行われるよう準備に力を尽くしております。2011 年の東日本大震災から復興しつつある福島での学会にふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。

第 27 回日本産婦人科・新生児血液学会

ご案内

会期：平成 29 年 6 月 2 日（金）・3 日（土）

会場：コラッセふくしま 4 階

〒960-8053

福島市三河南町 1 番 20 号

学術集会会長：大戸 齊

福島県立医科大学医学部輸血・移植免疫学講座 教授

HP：<http://www.jsognh.jp/scientific/>

第 27 回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会事務局

福島県立医科大学医学部総合周産期母子医療センター内

〒960-1295 福島市光が丘 1 番地

TEL：024-547-1563 FAX：024-548-2177

E-mail：jsognh29@fmu.ac.jp

■ 会長講演

第1日目 2017年6月2日(金) 10:55~11:40

「産科学と新生児学に架ける輸血医学」

座長： 福島県立医科大学産科婦人科学 教授 藤森 敬也

演者： 福島県立医科大学輸血・移植免疫学 教授 大戸 斉

■ 教育講演

教育講演1 第1日目 2017年6月2日(金) 9:05~9:35

「先天性溶血性貧血 ～遺伝子診断と疾患概念から～」

座長： 福岡市立こども病院 院長 原 寿郎

演者： 九州大学医学部成長発達医学 教授 大賀 正一

教育講演2 第2日目 2017年6月3日(土) 8:30~9:00

「ジカウイルスと妊婦、胎児」

座長： 福島県立医科大学小児科学 教授 細矢 光亮

演者： 国立感染症研究所 ウイルス第一部部長 西條 政幸

■ 三学会合同シンポジウム

第2日目 2017年6月3日(土) 10:10~12:05

(日本産婦人科・新生児血液学会、日本心臓血管外科学会、日本輸血・細胞治療学会)

「危機的大量出血：フィブリノゲンをどう使う」

座長： 三重大学産科婦人科 教授 池田 智明
福島県立医科大学輸血・移植免疫学 教授 大戸 斉
厚生労働省血液事業部会運営委員 花井 十伍

「献血血液の適切な活用によるフィブリノゲン製剤について」

演者：厚生労働省血液事業部会運営委員 花井 十伍

「周産期におけるフィブリノゲン製剤使用の現状」

演者： 順天堂大学産科婦人科 准教授 牧野 真太郎

「妊産婦死亡からみるフィブリノゲンと産科危機的出血」

演者： 三重大学産科婦人科 田中 博明

「心臓大血管手術における大量輸血と凝固障害」

演者：奈良県総合医療センター 総長 上田 裕一

「救命に貢献するフィブリノゲン製剤」

演者：埼玉医科大学総合医療センター 教授 山本 晃士

「過去の経緯と患者の立場から」

演者：厚生労働省血液事業部会運営委員 大平 勝美
社会福祉法人はばたき福祉事業団理事長

「胃がん予防のためのピロリ菌除菌の適応拡大と保険適応への道のり」

演者：参議院議員 秋野 公造
参議院法務委員長
(元)厚生労働省医薬食品局血液対策課

■ ワークショップ

ワークショップ1 第1日目 2017年6月2日(金) 15:55~17:15

「胎児輸血の適応と進歩」

座長： 宮城県立こども病院産科 科長 室月 淳
東京医科歯科大学輸血部 部長 梶原 道子
共催： バクスアルタ(株)

「胎児輸血の実際と困難症例」

演者：九州大学産婦人科 母子医療センター長 日高 庸博

「胎児輸血の国内での状況」

演者：札幌医科大学産科・周産期科 講師 水内 将人

「一絨毛膜双胎における胎児輸血～循環虚脱別にみた長期予後の解析～」

演者：長良医療センター産婦人科 高橋 雄一郎

「胎児輸血実施マニュアル」

演者：成育医療センター胎児診療科 小澤 克典

ワークショップ2 第2日目 2017年6月3日(土) 14:35~15:50

「産科・小児科の双方から血友病周産期管理を考える」

座長： 聖マリアンナ医科大学小児科特任教授 瀧 正志
(同 大学横浜市西部病院小児科部長兼こどもセンター長)

「血友病および保因者妊婦の妊娠・分娩管理」

演者： 奈良県立医科大学産婦人科 准教授 佐道 俊幸

「血友病新生児の分娩時出血に関する検討」

演者：聖マリアンナ医科大学小児科 長江 千愛

「血友病および保因者新生児の管理」

演者：奈良県立医科大学小児科 准教授 野上 恵嗣

■ ランチョンセミナー

ランチョンセミナー1

第1日目 2017年6月2日(金) 11:50~12:50 第1会場

「新生児凝固線溶系と胎児炎症反応症候群 (FIRS)」

座長：宮崎大学 学長 池ノ上 克

演者：鹿児島市立病院総合周産期母子医療センター長 茨 聡

共催：旭化成ファーマ株式会社

ランチョンセミナー2

第2日目 2017年6月3日(土) 12:10~13:10 第1会場

「取り残された血友病保因者問題」

座長：宮城県立こども病院 副院長兼血液腫瘍科長 今泉 益栄

演者：国立病院機構大阪医療センター 西田 恭治

共催：バイオセラティブ・ジャパン株式会社

ランチョンセミナー3

第2日目 2017年6月3日(土) 12:10~13:10 第2会場

「敗血症とDICの総合管理」

座長：奈良県赤十字血液センター 所長 高橋 幸博

演者：日本医科大学多摩永山病院救命救急センター 講師 田上 孝

共催：(一社)日本血液製剤機構

■ ビタミンKフォーラム

第1日目 2017年6月2日(金) 17:15~18:30 第1会場

「新生児と乳児のビタミンK欠乏性出血症」

座長：産業医科大学 名誉教授 白幡 聡

静岡県立こども病院 副院長兼周産期センター長 西口 富三

共催：エーザイ株式会社

「新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症予防対策の現況

—福岡県での調査を中心として—

演者：産業医科大学小児科 荒木 俊介

「胎児および早発型新生児ビタミンK欠乏性出血症に関する実態調査」

演者：静岡県立こども病院 副院長兼周産期センター長 西口 富三

